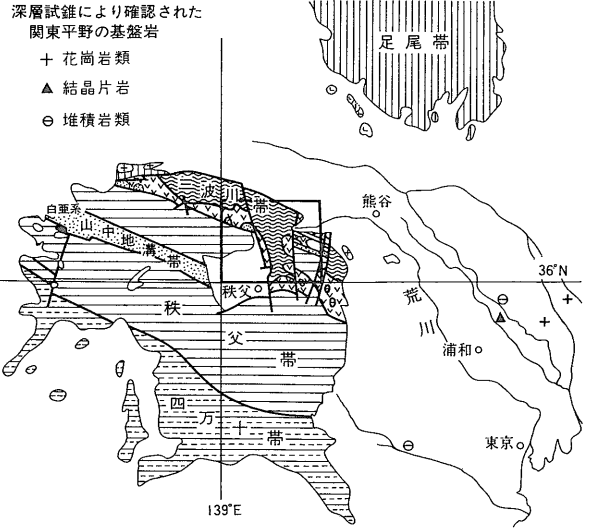


5万分の1地質図「寄居」紹介

5万分の1地質図「寄居」が地域地質研究報告とともに出版されました。筆者は、地質部の牧本博・竹内圭史の両氏です。

「寄居」地域は埼玉県秩父市などを含み関東山地東北部に位置しています(第1図)。この地域は大部分を関東山地が占めていますが、南東部に秩父盆地、北東部に関東平野の一部がかかります。荒川が地域南部から東部へと流れ、山地部を横切る長瀬は三波川結晶片岩が河床に広く露出して岩畳をなし、観光地としてまた日本の地質学発祥の地として有名です。

「寄居」地域は、先第三紀の地体構造区分では西南日本外帯に属し、三波川帯および秩父帯の地層が広く分布しています。三波川変成作用を受けた変成岩類はさらに、三波川結晶片岩類と御荷鉢緑色岩類に区分されています。この地域の秩父帯は、秩父帯北帯に属し、ジュラ紀に大陸縁辺部に付加した堆積岩コンプレックスからなります。



第1図 「寄居」図幅地域周辺の地質略図

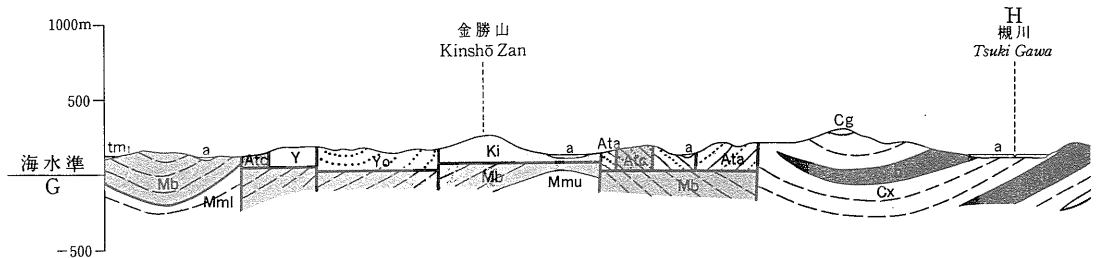
この地域は主として三波川帯の岩石、秩父帯および新第三紀の地層から構成されている。「寄居地域の地質」第3図の一部。

三波川帯中には跡倉ナップを構成する金勝山石英閃緑岩・角閃岩類・跡倉層・寄居酸性岩類・寄居層などが分布(第2図)しており、それらの地質時代は二畳紀から古第三紀初期までおよびます。跡倉ナップの形成時期は、晩新世(約60 Ma)から中期中新世(約16 Ma)の間と考えられています。

この地域の南西部と北東部には、新第三紀中新世および第四紀の地層が分布しています。(T)

地質調査所の出版物について

問い合わせ：情報管理普及室 Tel. 0298-54-3606



第2図 「寄居」地域東部の地質断面図

金勝山を通るほぼ南北の断面図。図左側が北、右側が南。a：現河床堆積物，tm1：中位段丘堆積物，Yo：寄居層，Y：寄居酸性岩，Ata，Atc：跡倉層，Ki：金勝山石英閃緑岩，Cg，Cx：秩父帯泥質岩，b：秩父帯玄武岩，Mmu，Mml：三波川帯泥質片岩，Mb：三波川帯玄武岩類。跡倉ナップ下面のほぼ水平な断層が印象的である。